

鍼灸学部鍼灸学科のディプロマ・ポリシー

鍼灸学部鍼灸学科では、建学の精神である「和の精神を真髄となし、東西両医学を有機的に関連づけて、社会に貢献できる医療人を育成する」を基本理念とし、医療人・社会人としての態度と教養、倫理観を身につけ、現代医学及びはり・きゅう学に関する高度な専門的知識及び技術を教授研究し、安全で適切なはり・きゅう施術を実践できる力を養い、国民の健康維持や疾病予防、医療と地域社会の課題に貢献し患者から信頼されるはり師・きゅう師を養成する。

本学科では、この目標に基づき、次のような知識を身に付け所定の単位を修得した者に学士(鍼灸学)の学位を授与する。

1. 知識・理解
 - (1) 医療人の基盤となる幅広い教養を身につけている。
 - (2) はり・きゅう学、現代医学の幅広い知識を有し、はり師・きゅう師に必要な基本的知識と技術を修得している。
2. 思考・判断
 - (1) 現代医学に基づく病態把握によりはり・きゅう施術の適応・不適応を的確に判断して対応することができる。
 - (2) 自ら探求すべき課題を見つけ、問題解決に取り組むことができる。
3. 関心・意欲
 - (1) 常に進歩変化する医療や社会情勢に関心を持ち、自ら情報収集を行い、生涯を通じて自らを高めることができる。
 - (2) はり師・きゅう師の社会的役割・使命を遂行して国民の健康維持や疾病予防、医療と地域社会の課題に貢献する意欲を持っている。
4. 態度
 - (1) 医療人としての自覚と人間性豊かで倫理感と責任感に富む人格を身につけている。
 - (2) 社会人としての常識と感性を身につけている。
5. 技能・表現
 - (1) はり師・きゅう師として基本的な病態把握と安全で適切なはり・きゅう施術が実践できる。
 - (2) 高いコミュニケーション能力を身につけ、医療チームの一員としての役割を意識した行動ができる。

鍼灸学部鍼灸学科のカリキュラム・ポリシー

鍼灸学部鍼灸学科では、学位授与に必要とされる能力(ディプロマ・ポリシー)を修得するために以下の方針で教育課程を編成する。

1. 初年次から教養科目および医療倫理教育を実施し、医療人としての幅広い教養と豊かな感性を備えるとともに高い倫理観を持つ人間性を育む。
2. 自ら探求すべき課題を提起して問題解決に取り組む主体性を身につける。問題解決型の能動的学習により、チームで問題解決を実践する能力を養う。
3. 基礎医学、臨床医学の幅広い知識を身につけるため、低学年から現代医学の教育を導入するとともに、本学の特色を活かした科目群を配置する。
4. はり・きゅう学の知識と技術を修得するための科目を各年次にバランスよく配置するとともに、将来の進路を展望した科目群を配置する。
5. はり師・きゅう師の社会的役割を理解し、地域社会に貢献する意欲を醸成する。そのために初年次の附属鍼灸センター等での見学に始まり、医療機関として附属病院、老人保健施設としてはぎの里、地域医療として京都府京丹後市間人などでの実習などを通じて社会の関心を育む。
6. 国民の健康維持や疾病予防、医療と地域社会の課題に貢献し患者から信頼され、医療者と連携ができるはり師・きゅう師になるため、現代医学系科目、スポーツ関連科目、健康関連科目、実習等の科目群を配置する。

本学科の教養課程は、教養系科目として『人間と社会』『自然の科学』『言語と情報』『医学教養』の各分野に区分し、また、専門系科目として『現代医学』『東洋医学』『鍼灸医学』『健康とスポーツ』の各分野に区分する。

上記カリキュラム・ポリシーを実現させるため、それぞれの分野に必要な科目を配置し、以下のように教育課程を構成する。

① 教養系科目

教養系科目では、『人間と社会』『自然の科学』『言語と情報』『医学教養』に区分し、1年次を中心に医療人として倫理観と高い教養が持てる知識を修得できるような科目を配置する。

『人間と社会』では初年次教育として大学教育を受ける上で必要な基礎知識の修得を目的とし、必修科目として「現代国語読解」「大学の生活と学習の基本」を開設する。「鍼灸コミュニケーション入門」では、アーリーエクスポージャーとして附属鍼灸センター等

の見学により心豊かな医療人として、患者の心理を可能な限り理解し、医療現場で必要となるコミュニケーションの方法を見修するとともに、見学を通じて感じた問題点等を抽出しグループワークやプレゼンテーションを通して問題解決能力を養う。「伝統医学の歴史と哲学」では、中国伝統医学の哲学と世界の様々な伝統医学及びその歴史を理解し、伝統医学としてのはり・きゅうを学修する。また、キャリア教育として「キャリアデザイン」を4年次に配置し、はり師・きゅう師、医療者としてのキャリア育成のための倫理や社会で必要とされる素養について学び、はり師・きゅう師として働くために必要となる倫理的思考や社会に関する基礎的な知識と科学的思考を高める。

『自然の科学』では、医療を実践する上で必要となる人体の構造と運動に関する力学的特性、人体に関わる生物現象、環境問題に関わる化学「物質と自然の科学」「物質の反応」「生き物の科学」を必修科目として開設する。

『言語と情報』では、国際的な感覚を有した医療人の育成のため「英語Ⅰ，Ⅱ」「医療人のための英語」を必修科目として、「中国語」「英語コミュニケーション」を選択科目として開設する。また、昨今の情報化社会において、医療現場におけるコンピュータの役割を理解し、医療業務や医学研究において必要となる情報を適切に処理できるよう「情報科学」を必修科目として開設する。

『医学教養』では、医療人としての豊かな感性と倫理観が持てるよう「医療概論」「関係法規」を必修科目として開設する。高齢者が増加していることを受け「高齢者と福祉」を必修科目として開設する。また、現代医療や医療を取りまく社会情勢を理解し、はり師・きゅう師の役割を考える力を養うべく、「世界の統合医療」「医療情報学」「医療社会学」を選択科目として開設する。

② 専門系科目

専門系科目では、『現代医学』『東洋医学』『鍼灸医学』『健康とスポーツ』に区分し、高度な専門性を備え、優れた知識・技術および身体能力を持ったはり師・きゅう師を育成すると共に、はり・きゅう学の学術研究の進展への寄与ならびに社会への貢献を志向できるよう、必修科目を中心に次の科目を配置する。

『現代医学』では、はり師・きゅう師が必要とする医学的基礎知識を1年次から2年次を中心に身に付け、段階的に臨床医学領域への移行を行う。「人体構造学」「人体機能学」「病理学」「公衆衛生学」「免疫学」「感染症学」「生化学」等を学修し、人体の機能や疾病などに関する理解を深める。2年次からは、はり師・きゅう師に必要な臨床医学の知識を修得するため、「内科系臨床医学各論」「整形外科系臨床医学各論」「外科系臨床医学各論」「リハビリテーション医学」等を学修し、疾病の病態、診断、処置についての知識を修得し幅広い視野で現代医療を理解する。4年次には、現代医学のまとめとして病院

内の構造や医療従事者の役割の違い，チーム医療を学ぶため本学附属病院における「附属病院実習」（臨地実習・臨床実習）「統合医療セミナー」を行う。

『東洋医学』『鍼灸医学』では，はり師・きゅう師が必要とする東洋医学及びはり・きゅう学基礎知識を修得するため，1年次から「東洋医学概論」「経絡経穴学」「伝統鍼灸診断学」等を学修する。1年次から2年次にかけては，はり師・きゅう師が必要とする東洋医学及びはり・きゅう学基礎技術を修得するため，「鍼灸技術学総論」「鍼灸技術学実習」「灸技術学実習」では，はり・きゅうの基本手技について実習を行い学修する。「経絡経穴学実習」「鍼灸触察解剖実習」でははり・きゅうの治療部位である経絡，経穴についてその意味，取穴方法等を学修する。「伝統鍼灸診断学基礎実習」「伝統鍼灸診断学演習」では東洋医学に基づく診察技術，診断法を学修する。3年次は，はり師・きゅう師が必要とする臨床能力や技術を修得するため，「臨床鍼灸学」「臨床鍼灸学実習」では，疾患や症状に応じたはり・きゅう施術や診察法を学修する。また，はり・きゅう治療（刺激）による生体反応や作用機序について「鍼灸治効学」で学修する。国民の健康増進や疾病予防など，はり師・きゅう師の役割の拡大に伴い，健康維持や予防，セルフメディケーションを修得するため，「健康・予防鍼灸学」「健康・予防鍼灸学実習」，スポーツ領域を修得するため，「スポーツ鍼灸学」「スポーツ鍼灸学実習」，高齢者領域を修得するため，「高齢鍼灸学」「高齢鍼灸学実習」で学修する。4年次では，はり師・きゅう師の社会的役割を理解し，地域社会に貢献する意欲を修得するため，臨地実習（臨床実習）である「附属鍼灸センター実習」「学外臨床実習」「高齢者ケア実習」にて実践力を養う。

『健康とスポーツ』ではスポーツ領域に優れたはり師・きゅう師を育成するため「健康科学」「トレーニング実習」など運動能力を効果的に高める方法の実践や健康づくりのための運動指導の知識を修得する。他に4年次には，「卒業研究」を配置し指導教員のもとで研究テーマを個人もしくはグループで定め，実験，研究，調査，あるいは文献購読，症例研究など様々な方法を用い研究し，卒業論文としてまとめ，研究についての意義やテーマについての理解を深める。

鍼灸学部鍼灸学科のアドミッション・ポリシー

明治国際医療大学は、『“和の精神”を真髄となし、東西両医学を有機的に関連づけて、社会に貢献できる医療人を育成する』という建学の精神のもとに、保健医療の分野で国民の健康と福祉に寄与することのできる“実践力ある心豊かな医療人”の育成を目指しています。

本学ではこの目標に向け、①豊かな人間性、②東西両医学を有機的に関連づける実践力、③保健・医療・福祉の発展に寄与する能力を備え、④医療の国際化に対応しながら地域の特性を踏まえて社会貢献ができる優秀な人材の育成を指針としています。

また、全学部共通として、自己を律する心、他者を気遣う心、コミュニケーション能力、さらに生涯学び続けようという強い意欲を持つ人を求めています。

鍼灸学科の入学受入方針（アドミッション・ポリシー）

人の“こころとからだ”の健康を守りたい、苦痛を緩和したいという信念を持ち、将来、医療や地域社会に貢献する仕事に就きたいと考えている人で次の資質を有する者を求める。

1. 現代医学、はり・きゅう学の知識と技術の修得に必要な基礎学力を有する人
2. 鍼灸学部鍼灸学科の教育目的を理解し、現代医学、はり・きゅう学に関する知識・技術の修得及び身体能力の向上に積極的に努力する人
3. 規律を重視し主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を有する人

入学までに身につけてほしいこと

入学後の教養系教育及び専門系教育に十分に対応できる資質として、高等学校等での教科科目に関しては、下記の(1)～(4)を入学時まで修得しておくことが求められます。

教 科	内 容
(1)国 語	様々な文章（特に論理的な文章）を読む能力及び考え方を深め進んで表現しようとする態度
(2)英 語	基礎的な読解力と表現力及び英語でコミュニケーションを図ろうとする態度
(3)数 学	基本的な数学の知識と技法を習得し、論理的な思考を展開できる
(4)理 科	「生物基礎」の内容の理解と基礎的応用力（加えて「生物」「化学」及び「物理」を学んでおくことが望ましい）